

# 人間と動物が住みやすい環境

## relationship between humans and animals

津島麟太郎

指導教員：坂元愛史

サレジオ工業高等専門学校 デザイン学科 インテリア家具研究室

キーワード：ペット 愛玩動物 人間と猫の生活

### 1. 研究目的

私は自宅でペットを飼っており、とてもいい関係を築いている。しかし世間では、ペットを飼うことで生じる問題がある。例えば日々の散歩の時間やノミ、マダニの心配等が挙げられる。また、もう少し引いた視点で見ると、度々ニュースにも取り上げられている「ペットショップ問題」や「高齢者とペットについて」「ブリーダー崩壊」についても大きな問題が潜んでいるようだ。

そこで、人と動物のより良い関係について、卒業研究として取り組むこととした。

### 2. 調査内容

人と動物の関係を考えるにあたり背景の調育を行った。

#### 2-1. 動物を飼っている世帯と具体的な割合

全体の割合ではペットを飼っている率が **36.7%** パーセントだった。その中で一戸建てで「飼っている」と答えた者の割合は、**42.9%**であった。種類では犬と猫の割合が 1 番多く、犬は **9.69%**、猫は **8.63%**だった。全体の世帯数が **4885** 万世帯で、仮に 1 世帯一匹だとしても単純計算で **928** 万 **1500** 世帯が大または猫を飼っている事になる。

( ) は2018年比

	犬	猫
全体	11.1% (▼1.5%)	9.6% (▼0.2%)
20代	12.3% (▼1.2%)	9.3% (▼0.3%)
30代	10.9% (▼0.8%)	9.5% (▼0.5%)
40代	11.3% (▼0.9%)	10.0% (▼0.8%)
50代	11.9% (▼2.6%)	10.7% (▼0.6%)

図 1 世代毎の飼育割合

図 2 ペットの新規購入数

図 1 は世代ごとの飼育割合である。犬は 20 代、猫は 50 代が 1 番多い。図 2 は新規で飼ったペット数で、この 10 年ほど横ばい状である。2)

#### 2-2. 愛玩動物はどのような存在か

ペットと一緒にいると寂しさを埋められる共に社会生活を向上させてくれる。また安心感を増し、散歩などにより飼い主も活動的になり健康へつながる。このことから仕事の疲れや学業の疲れを癒すためにペットを飼う人がいると分かった。1)

#### 2-3. ペットショップ問題

しかしこの多くのペットが人間社会に存在していることで次のような問題が生じている。

ペットショップでは子犬や子猫など可愛い動物たちがたくさん売られているがその動物たちはどこからきているのだろうか。保護犬の活動に少し携わっている母親に聞き取り調査を行った。

ペットショップの動物たちは多くをブリーダーが供給している。しかし、稀にその環境が劣悪なことがある。



図 3 ブリーダーによる劣悪な多頭飼いの例

例えば府中市のブリーダーでは週に 1 度しか水

を与えず、地上を知らない状況だったようで地面で歩くのに相当時間がかかったらしい（図3）。

またペットショップの売れ残りも問題になっている。一部のペットショップでは廃業してしまうと保護施設に連れてかれ殺処分されてしまうケースもある。

#### 2-4. 高齢者のペット問題

安易にペットを飼うことも社会問題にもなっている。

体力の衰えから世話が負担になり、認知症などの高齢者特有の病気になるとエサをやったか忘れる、ペットの病気に気づかないなどペットの死亡原因になったり、室内が汚損し不衛生な環境になったりする場合がある。

又飼い主の、持病の悪化等により入院が必要になったとしても、ペットがいるため入院を拒みさらに体調が悪化。そして、飼い主が死亡。その結果飼育放棄になるケースは多発しているという。3)

### 3. 分析とコンセプト

#### 3-1. 分析

今回は研究対象として自ら飼育経験のある猫に絞って考えることにする。それに伴い日本で猫が愛玩動物になっていく過程を追加調査した。

日本では穀物を育てる際ネズミの被害に頭をかかえていた。そこでネズミを獲物とする猫は穀物の倉庫番として重宝されていた。ネズミを捕る猫とネズミの害から逃れられた人間。共に暮らしたことで、双方にとって利益が生まれた。こうしてお互い共存関係を持ったことをきっかけに、猫と人間は関係を深めていき、やがて神や豊かさの象徴とされたと考えられる。

平安時代になると、猫は現在のような愛玩動物として扱われはじめる。しかし、まだまだ数も少なく貴重な存在であったため、猫の飼育は限られた貴族のみに許された楽しみだった。

江戸時代になると浮世絵に描かれることが多くなりとてもポピュラーな存在として扱われた。例えば歌川国芳は愛猫家で数匹から十数匹の猫を飼い、死んだ猫のためには仏壇を用意していた。

#### 3-2. コンセプト

調査と分析からペットにも人間にも住みやすい環境が必要なのではないかと考えた。

今回は具体例としてキャットタワーをデザインすることにした。下の図のように従来のキャットタワーは、人間の生活に溶け込んではいないもの。これで本当に猫が快適に過ごせているかは検証が必要に思われる（図4）。



図4 市販の人間も使えるキャットタワー例

#### 4. アイデアと試作

ペットと飼い主、お互いの生活を両立させるキャットタワーを目指して施策を行っている。

#### 5. 今後の見直し

今後は試作を行いそこで出た問題点を見つけ改善しつつ本制作をおこなっていきたい。

#### 参考文献

- 1) ペットが及ぼす心理的効果金子 智栄子 文京学院大学研究紀要 Vol.5、p87、2003年
- 2) 内閣府 動物愛護に関する世論調査  
[https://survey.gov-online.go.jp/h12/aigo/2-1.html#:~:text=\(2\)92E](https://survey.gov-online.go.jp/h12/aigo/2-1.html#:~:text=(2)92E)
- 3) 公益財団法人東京市町村自治調査会ペット問題の解決がもたらす住民の生活環境向上に関する調査研究報告書  
<https://www.tamal00.or.jp/cmsfiles/contents/0>

上記 Web サイトの閲覧日は 2023 年 7 月～9 月